小さい者の一人が滅びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つのぶえ
TSUNOBUE

2019年 12月20日　第425号

社会福祉法人
小羊学園
住所 〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町2709-12
電話 053-584-3337　FAX 053-585-8488
E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/
発行人 稲松義人
印刷所 アド・アール株式会社

小さな存在であったとしても、そこに大切にすべき「尊厳」がある

最近は「多様性」が求められる時代のようだ。しかし、下手をすると「何でもあり」の社会では秩序が失われることになりかねない。聖書は、「体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つである」と教えている。社会における「多様性」と「秩序」についてはいつの時代にも共通のテーマのようだ。聖書の教えは「体の中でほかより弱く見える部分が、かえって必要なのです。」と続いている。「多様性」といいつつ、それぞれ違った力をもった人たちが協力して新しい結果を生み出すことをイメージしてはいないだろうか。多様性の社会は、それに加えて「インクルーシブ」でなければならない。弱い人も全体の足を引っ張るように見える人も決して排除せず共に生きる。同じ社会の構成員だという覚悟が求められる。どんなに小さな存在であったとしても、そこに大切にすべき「尊厳」がある。これは、人間の知恵を超えた領域のことなのではないだろうか。

稲松義人

医療・看護・リハ・福祉・栄養で支える重症心身障害支援
～つばさ静岡の多職種・地域連携～

【つばさ静岡の現状】

事務長　望月克彦

つばさ静岡は、人工呼吸器や経管栄養などの濃厚な医療ケアを必要とする「①障害者入院基本料病棟」（30床）と経口摂取の方が多い「②特殊疾患病棟」（43床）で構成されています。①は主に看護師②は福祉職を主に配置していますが、中には①②の中間的な混成ユニットもあります。またその他にも利用者の生活に必要な専門職を配置しています。協働を旗印に互いに専門性を尊重し、また相互理解を目指しています。

事務所の目標は「忙しい時こそ深呼吸、心に余裕をもって笑顔で業務」「連携を深めチーム力を高める。」としました。目まぐるしく変化していく医療や福祉のニーズや制度への対応・経営管理・人材確保の様々な課題があり、また職場内においても各専門職からの見識の違いから意見が対立する事も多々あります。

ラグビーW杯日本代表も各々の選手が高い専門性を活かしチームとしてまとまり偉業を成し遂げました。

私達も自分には無いスキルを持った職員と共に働ける環境である事を強みとして、ワンチームとなり山積する内外の課題をひとつずつ克服していきたいと思います。

【医療支援】

施設長　山倉慎二

重症心身障害児者の支援に医療は欠かせません。年々、医療ケアを必要とする方が増えていく一方で、医療も年々高度化、専門化しています。そういう実情の中、重症児者支援においては、専門家としての医師や医療関係者がつい日々の主導をとりがちです。しかし、私たちは決して医療が生活の中心になってはいけないと思っています。そのためには何よりも家族も含めた多くのものでの話し合い、意見交換が必要です。意思決定支援の重要性が取りざたされる昨今ですが、重症児者にとって、医療や命にかかわる意思決定は、最終的には家族や支援する私たちの意思決定にかかっていると言えるでしょう。その決断に至るまでに多くのものが真摯に考えて、意見を出し合い、話し合うという過程があれば、そこに最善の利益が生まれます。多職種がそれぞれの専門性の中で知恵を出し合える環境、他の人の意見に耳を傾ける姿勢が今の医療支援の在り方だと考えています。

【看護支援】

療育部長　鈴木良成

利用者の重症化、高齢化により生活を支える医療のニーズがますます増大しています。多様化するニーズに対しても利用者の意思を尊重し、療育スタッフの専門性とチーム力を強化していく必要性が高くなっています。特に医療に対して看護師の役割は、利用者の健康管理や生活支援において中心的な立場でもあります。より専門性・個別性の高い看護・療育実践を行う能力を育成していく必要があります。役割は人を育てるという意味でも、達成を重視できるような機会を創っていくことを考えています。利用者、家族に対して今後の医療について最善な意思決定ができるよう、ひとりひとりの人生会議に関わっているスタッフと共にプランを考えていく支援を継続的に行なっています。

【リハビリテーション支援】

医務課長　村上哲一

当施設では、入所利用者以外にも外来の重症児者を対象に日常の姿勢や食事の評価・提案、呼吸リハを中心としたリハビリ支援を行なっています。

重症児者には自分の思うように体を動かすことが出来ない方が多く、そのため体が固くなったり、側わんなどの変形をきたしやすい状況にあります。体を動かすことが一番なのですが、どうしても多くの時間は他の人の介助を待っていることになります。ちょっとした日常の姿勢であっても痛いところがあったり、苦しい呼吸では、せっかくの周りの音楽や会話、季節を感じて楽しむことなどとてもできないと思います。そのちょっとした姿勢の工夫で日常が楽しいものとなるように支援することを心掛けています。そして、一時的な対応で終わらず、施設の現場や在宅でリハ職員が居なくても提案した姿勢を継続できるようにご本人専用クッションの作製まで行っています。一回でも多く笑顔が見られる毎日となるよう、より具体的で現実的な方法を考え提案していきます。

【福祉支援】

支援課長　鈴木秀美

これまで医療ケアの無い利用者の生活全般で支援を行なってきましたが年々、医療ケアを必要とする人が一人二人と増えてきました。その人の人生を考えた時、本当に医療に踏み切ってよいのか、何もしない方が幸せなのか。本人にとって何が一番良いのかをその都度、考えさせられます。本人は勿論ご家族、スタッフと何回も話し合いを重ねて、その人の生きてこられた人生を振り返り、これからの人生を想像します。

正解はわからないですが、最終的には方向性が何とか見えてきます。しかし大切なのは正しい答えを見つけるのではなく、そこに辿り着くまでのプロセスです。ご本人・ご家族・医療者・相談員・支援員、その人を取り囲む全ての人たちと、とことん話をする時間を、大事にしています。

【相談支援】

相談支援専門員　北尾会津

在宅の重症児者に相談員として関わり感じることは、多様な支援機関との連携の大切さです。主な機関として、病院・訪問診療・訪問看護ステーション等の医療機関、通所・短期入所・居宅介護等の福祉サービス事業所、学童期には特別教育支援センター・特別支援学校・地域の学校等の教育機関です。多機関・多職種が専門性を持ってひとりひとりを支えています。本人ファーストで支援者たちを繋ぐことが相談員としての役割のひとつです。

【食事・栄養支援】

管理栄養士　府川恭子

「食事＝楽しみ」「食卓＝笑顔」

料理を通じて皆がつばさ静岡の屋根の下、大家族で気持ち良く生活出来たらいいなと考え、嚥下調整食が必要な方の食事も常菜食を食べている方に負けない見た目、味にこだわって日々の食事を作っています。また多職種連携により更に食べる方に寄り添った食事提供を実現していると思います。

2018
クリスマスメニュー

【多職種連携について】

療育部長　鈴木良成

病院として、また自前の給食部門を持つ入所施設として、さまざまな職種のスタッフで業務をしています。多職種連携においては、教育体制の見直しや改善をし、職員全員を対象として研修などに参加する体制にしました。新しい職員の教育を支援するという、それぞれの役割を認識し、その役割を果たすとともに、自己成長していく機会を作り支援するものです。どのような職種でも同じ療育観を持てるように継続的に教育していくことで連携につながっていくことと考えています。勉強会においてもそれぞれの専門職による専門的な知識や技術の共有ができ、必要に応じて保護者面談やユニット会議にも参加協力をしています。

利用者の生活支援においてすべての職種が関わっており、それぞれの職種に対して専門性を理解することがとても重要であると思います。

【広域・地域連携について】

支援課長　鈴木秀美

利用者を囲む人たちの連携も大切ですが、まずは地域で暮らしていく当事者である本人達を知ってもらう事が地域連携の第一歩だと考えています。その為には、自分たちから外に向けての発信が必要です。

利用者を中心とした地域の方々との関わりとしては、外出企画や、つばさ内外でのイベント参加などがあります。行き先は様々ですが、最近では大学の文化祭、町内のお祭り、他の生活介護事業所へ出向いての交流、一泊外出なども行っています。外出先では重症心身障がい児者を全く知らない方達が殆んどです。企画の段階で相手先とやり取りをしながら、訪問する利用者がどんな人たちなのか、その際、こんな設備・こんな配慮が必要だが可能かどうか等を細かく伝えます。しかし、つばさ静岡スタッフの話から「来る人たち」をイメージしてくださっても、実際どれだけの方が自身の想像通りだったかなと思う事も少なくありません。だからこそ、こちらから「お近づき」になれるチャンスをたくさん作り、いろんな場所で知り合いを増やしています。地域で心地よく生活をしていく為に、つばさと、そこで生活する人たちを知ってもらう機会、地域の方々たちと繋がる機会を大切にしています。

笑いあり／闘志あり／支えあいあり
第11回　小羊学園ふれあい運動会

実行委員長　オリーブの樹　鈴木　賢也

秋晴れの中、10月11日に浜北グリーンアリーナにて恒例の小羊学園ふれあい運動会が開催されました。参加施設は、三方原スクエア、支援センターわかぎ、小羊デイケアホーム、マルカート、オリーブの樹、風の丘、つばさ静岡、約250名の皆さんが集いました。

【午前の競技】

今回のふれあい運動会は、より楽しく参加するために、開会宣言やラジオ体操など職員と利用者が一緒に前に出て行いました。前に出た皆さんは緊張しつつも、笑顔いっぱいで楽しむことが出来ました。

午前はじめの競技は徒競走でした。30M、15M、10Mのグループに分れ、皆さんが体力に応じた距離を、自分のペースで走りました。中には一等賞を目指し、全力で走りきる人もいました。ゴールの後、嬉しそうに完走シールを誇らしげに見せる姿が目に焼き付いています。

お腹も少し減ってきたところで、パン食い競争を行いました。カレーパンやメロンパンなどを含む計十種類のパンが用意されました。スタートすると皆さんが好きなパンをキョロキョロと探しながら走ります。自分のお気に入りのパンを見事ゲットすると「これは僕の！」と嬉しそうに職員に見せている様子が印象的でした。

また、つばさ静岡の利用者も遠方から参加しました。電動車椅子で徒競走やパン食い競争に元気に参加し、浜松の仲間たちとの交流を楽しみました。

【午後の競技】

お昼ごはんを食べた後は毎回楽しみにしている「魅惑的倶楽部（エキゾチッククラブ）」の皆さんによる歌とダンスです。『バスにのって』や『パプリカ』など聴きなじみのある曲ばかりで、皆さん曲を口ずさみながら列になったり、踊ったりしました。

午後の競技は施設対抗戦で、玉入れ、大玉転がし、リレーが行われました。

玉入れは、竿に吊るされたカゴだけでなく、職員がカゴを背負うことで、高い所に玉を入れられない利用者も玉を入れて楽しむ事が出来ました。

大玉転がしは、人の大きさ程ある大きな玉で行い、慎重に転がす方もいれば、一気に押し出して全力で走る方もいて、皆さん自分の得意なやり方でとても巧みに転がす事が出来ました。

最後の競技は、いろいろな施設や男女が混合で行うリレーです。普段はなかなか交流できない他施設の仲間からバトンをもらい、そして次の走者に渡す。一瞬の出来事ではありますが一つのゴールを目指してバトンを繋ぐことで、施設という垣根を超えた仲間意識が芽生えたのではないでしょうか。また最後の五走、六走は、職員と利用者が一緒に走りました。笑顔で一緒に走るその様子から、日頃の職員と利用者との信頼感を垣間見たような気がしました。

【運動会を終えて】

接戦の末、小羊デイケアホームと支援センターわかぎが同率一位となり、優勝決定を決めるじゃんけんによって、小羊デイケアホームが栄えある総合優勝を果たしました。

どこの施設も白熱した戦いを見せ、何よりも笑顔、笑い声の絶えない賑やかな運動会となりました。

今後も、各施設の交流の場として、楽しい運動会ができたらいいなと思いました。

最後になりましたが、運営に当たり一日全力で楽しんでいただいた利用者の皆さん、保護者の皆様、各施設の職員、そして実行委員の皆さん、運動会を支えて頂きありがとうございました。

秋のイベント盛りだくさん！　笑顔はじけた各施設のイベントを報告します！

【オリーブ祭り】

昨年は、台風で中止となり、今年も雨予報で心配されましたが、9月21日（土）に開催することが出来ました。

天候に配慮し、規模をやや縮小しての開催となりましたが、バザーや模擬店、オリーブの樹就労Bによる B-cafe（喫茶）、フリーマーケット等、例年通り大盛況でした。加えて、浜北特別支援学校による和太鼓演奏、浜名ベンチャーズによるバンド演奏が会場を熱く盛り上げました。

今年は抽選券を配布し、正午から抽選会を実施しました。豪華景品を前に大盛り上がり。来場された利用者・保護者、地域の方々に楽しんで頂けることが出来ました。来年も、より多くの方々に楽しんで頂ける企画を考えたいと思います。

実行委員　袴田　翔

模擬店も大盛況

【フェスタつばさ】

9月19日天気予報では雨が予想されていましたが見事な快晴となり、今年もフェスタつばさは大盛況の中行われました。重心を知ってもらう、地域の方との交流を深めるということをテーマに工夫を凝らした催しを用意、ゲストのステージは更にその場を盛り上げてくれました。出店担当の利用者は、自然に一般の方々と接して商品を受け渡し、ステージ発表ではパプリカダンスを子どもたちと踊り、沢山のボランティアスタッフとの交流もありました。このイベントを通して地域の方々がつばさ静岡という場所を知ってもらい、さらに地域に密着した場所になれることを願っています。

フェスタ実行委員長　渡邊歩波

浜松から家康くん･直虎ちゃんも参上

【わかぎ秋祭り】

10月26日（土）秋晴れの中、利用者、保護者様、他施設の皆様、地域の皆様等、多くの方々にお集まりいただき、秋祭りを開催致しました。

今年は新たな試みで、模擬店やフリーマーケットで利用いただけるクーポン券をかけ、抽選会を行い、大いに盛り上がりました。

フリーマーケットでは、他施設様等にも多数ご出店いただき、利用者の皆さんも買い物を楽しまれていました。イベントでは、吹奏楽、フラダンス、バンド演奏、ゴスペルの皆様をお招きし、素敵な演奏やダンス、歌を披露していただき、利用者の皆さんもノリノリで、楽しい秋祭りとなりました

実行委員長　寺田　真菜美

浜北交響吹奏楽団の演奏

【スクエア秋祭り】

11月9日（土）、穏やかな晴天に恵まれ、屋外で飲食や各種アトラクションを楽しむことができました。今年のアトラクションは「フルーピア」（フルートとピアノ）の演奏と、新人男性職員とご友人による趣味のダンスが披露されましたが、午前に行ったカラオケ大会を含め、利用者の皆さんはじけた笑顔で唄い踊って盛り上げてくれました。また今年は露店コーナーで水あめを取り入れ、型抜きからチャレンジする本格的なものでしたが、真剣に取り組む利用者もいて大成功でした。今年はボランティアとして浜松さくらライオンズクラブの皆様も参加して下さり、集まった皆さんが一丸となって作り上げた秋祭りだったと実感しました。

実行委員長　中村圭佑

みんなでヒップホップダンス！

KOHITSUJI STAFF

リレートーク

Vol.5 高木 君江さん

2005年入職　たんぽぽ　児童発達支援管理者

Q小羊学園を志した動機は?

総合病院の小児科で保育士をしている時に、つばさ静岡が開設するという話を聞き、やってみたいと浜松に２泊３日の就職実習に行ったのが始まりです。

Qこの仕事の嬉しいこと、悲しいことは？

その日、子供たちが体験した事や、こんな事出来たよと親御さんにお迎えの時にお話しすると嬉しそうに聞きながら、またね、と子供と帰っていくのを見送っている時がとても嬉しい気持ちになります。

Qちょこっとプライベートを教えて！

飼い猫の梅ちゃん（３才女の子）と過ごす事が楽しみ

Q誰にリレーしましょうか？また一言メッセージを！

ドルチェの原田麻衣さんへ
また遊びに行きましょう！

チームリーダー研修　開催

12月9日、支援センターわかぎにて、小羊学園チームリーダー研修を開催しました。今回の研修は①人材育成の現状と課題を把握すること②チームマネジメントを実践していくうえで必要とされる力を理解し実践につなげること、を目的として聖隷クリストファー大学社会福祉学部の福田俊子先生をお招きして開催しました。

午前中は福田先生から「人材養成システム」特に人材養成とキャリアラダーについて講義いただきました。

技術習得の5段階モデル（ベナー）や、援助観の生成（横山登志子）、実践能力を変容させる契機（保正友子）などの実践研究に基づく援助技術論を学び、小羊学園のキャリアラダーについて整理・確認作業を行いました。

午前講義後はグループワーク中心の研修として、①新人職員達成度確認表の比較検討②中堅職員の達成度確認表作成③制度に関する情報交換、改題改善の方向性などを各グループで議論しました。現在各施設で行っているプリセプター・メンター制度の有効性なども確認しながら、達成度確認表の評価基準を精査したり必要な評価項目の追加・削除などを意見交換しました。

研修の締めはスーパービジョンの基礎知識について講義いただきました。スーパービジョンには「管理的機能」「教育的機能」「支持的機能」があり、公式的な場面から臨機応変柔軟な場面でのスーパービジョンもあると学びました。

参加した主任・リーダークラスの職員からは、新人教育や2年目以降の職員に福祉専門職の育成について、気づきや刺激を受け良い学びになったとのレポートが多くありました。利用者の笑顔のために、関わる職員が笑顔であり続けられるよう小羊学園がONE TEAMになっていきたいと思います。

あとがき

静岡市には、治水機能と公園機能を有する賤機遊水地があります。先の台風でもその機能を果たし、賤機地区に源を発する巴川が大きく乱れることはありませんでした。そもそも「遊水地」とは洪水時の河川の流水を一時的に氾濫させる土地のことで、増水した川の水を敢えて氾濫させ、それによって住居への災いを防ぐというものです。そのことを鑑みると「遊水地」には、自然に対して真っ向から挑むというよりも受けてかわすという印象が湧出してきます。そして個々の心にも「遊水地」が必要だとの思いにも至ります。（M）

小羊学園を支える会

2019年度 寄付金報告

10～11月分　1,884,520円（101件）
累　計　3,880,820円（197件）

多くのお支えに感謝申し上げます

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座　00800－8－107785
口座名義　社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行　089店　当座預金0107785
口座名義　社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。
下記へご連絡ください。
小羊学園を支える会事務局（鈴木）
小羊学園法人本部　☎053－584－3337